第２学年国語科「とっておきのはつめいをしょうかいしよう　ーあったらいいな、こんなものー」単元構想図（総時数 14時間）

本単元で必要とされる既習の基礎的・基本的な知識・技能及び考え方

（１年）

「はっきりはなそう」
①　姿勢、口形に注意して、はっきりした発音で話す。

「ことばって、おもしろいな」
②　丁寧な言葉を使って、やり取りをする

「よくきいて、あてよう」
③　ものの特徴を聞き手に分かりやすく説明する。
④　友達の話の大事なことを落とさないようにして、興味をもって聞く。
⑤　分からないことや詳しく聞きたいことを尋ねたり、それに答えたりする。

（２年）

「書いて知らせよう」
⑥　必要な事柄を集めて書く。

「だいじなことをおとさずに、話したり聞いたりしよう」
⑦　特徴がよく分かるように大事なことを選び、順序よく話す。
⑧　特徴を聞き落とさないように、注意して聞く。

【指導計画】

時	主な学習活動・内容	基礎的・基本的な知識・技能及び考え方の活用		活用を促進するための手だて
1	「ドラえもん」の道具のなかで自分が欲しい道具を発表し合い、学習の見通しをもつ。 A　学習の見通し 言　「ドラえもん」の道具のなかで自分が欲しい道具について述べる。	① ② ④	自分が欲しい「ドラえもん」の道具について進んで述べる。 全体の場で聞こえるようにはっきり話そうとする。 友達の方を向いて、発表を聞こうとする。	「ドラえもん」の道具について話したいという意欲をもたせるために、「ドラえもん」に関する本を提示する。教室で掲示している話し方、聞き方の約束を確認して、発表させる。
2 3	自分が欲しい「ドラえもん」の道具について、カードにまとめる。 B　話す事柄（あったらいいなと思うもの、どんなもの、こんなことができる） 言　話す内容について事柄ごとにカードに書く。	⑥	自分が欲しい「ドラえもん」の道具について、よく分かるように伝えるための必要な事柄（あったらいいなと思うもの、どんなもの、こんなことができる）を考える。	自分が欲しい道具について、どんな事柄を話したらよく分かるのかとらえさせるために、モデルのカードを提示し、色分けしたカードに、事柄ごとに書かせる。
4	話す順序を考える。 C　話す順序（①あったらいいなと思うもの②どんなもの③こんなことができる） 言　モデルの文をもとに、どの順序で話したらよいか、話し合う。	⑦ B	特徴がよく分かるように伝えるためには、①あったらいいなと思うもの②どんなもの③こんなことができる、の順序で話したらよいことに気付く。	どの事柄をどの順番で話したらよく分かるのかとらえさせるために、モデルの文を提示し、自分のカードをどの順序で並べたらよいか、考えさせる。
5	発表の練習をする。 D　話し方（ちょうどよい声の大きさ・速さ、みんなの方を見て、よい姿勢で） E　聞き方（話す人を見る、うなずく、途中でしゃべらない、話が終わったら分からないことをたずねたり感想を言ったりする） 言　二人で発表の練習をし、助言し合う。	① ⑤ ⑦ ⑧ C	話し手は声の調子や視線、姿勢に気を付けながら、まとまりごとに順序よく話す。聞き手はうなずきながら最後まで話を聞き、発表に対して質問や感想を述べる。	聞き手に分かりやすい発表を行うために、話し方や聞き方を全体で確認する。その後、二人で互いの発表を聞き、話し方や発表の内容について助言し合うように促す。
6	「あったらいいなドラえもんの道具」発表会を開く。 F　全体の場での話し方と聞き方 言　自分が欲しい「ドラえもん」の道具について、全体の場で発表するとともに、友だちの発表に対して質問や感想を述べる。	C D E	全体の場にふさわしい、話し方や聞き方で発表会を行う。友だちの発表に対して、質問や感想を述べる。	より分かりやすい発表について考えさせるために、参観日に発表会を設定し、保護者からも感想や改善点について意見をもらう。
7	自分で「あったらいいもの」を考える。 言　自分が考えたものを簡単な絵や文で表す。	A	「ドラえもん」の道具について発表した経験を生かし、自分の学校や家庭での生活から「あったらいいもの」を考える。	自分がほしい道具について考える手掛かりとするために、「ドラえもん」の道具について想起させる。
8	対話の方法を知る。 G　対話の目的や方法 言　対話の練習をする。	B D E	発明品の形・大きさ・使い方などについて、話題に沿って話したり尋ねたりする。	話し手と聞き手、モニターの役割について理解させるために、対話の例を聞かせる。
9 10 本時	**二人組になって対話し、発明品について相談する。 H　対話を通して発明品をより分かりやすく詳しくすること 言　二人で発明品について話し合う。**	**B D E**	**発明品の形・大きさ・使い方などについて、話題に沿って話したり尋ねたりする。**	**発明品の説明を詳しくするために、聞き手の観点を明確にした対話の評価規準図やヒントカードを提示する。**
11	話す内容をカードにまとめる。 言　話す内容について事柄ごとにカードに書く。	B H	話す内容（あったらいいなと思うもの、どんなもの、こんなことができる）を書く。	「ドラえもん」の道具のカードを手掛かりにして、事柄ごとに、色分けしたカードに書かせる。
12	話す順序を考える。 言　自分が考えた順序を二人組で紹介し合う。	C	①あったらいいなと思うもの②どんなもの③こんなことができる、の順序で話したらよいことに気付く。	「ドラえもん」の道具の説明の順序を手掛かりにして、カードを並べさせ、話の組み立てを考えさせる。
13	発表の練習をする。 言　二人で発表の練習をし、助言し合う。	C D E	これまでの学んできたことを基に、よい聞き方、話し方の視点を明確にして、発表会の練習をする。	発表会に向けて、めあてをもたせるために、よい話し方、聞き方を確認するとともに、第６時の発表会でのよかった点や改善点を知らせる。
14	「あったらいいなこんなもの」発表会を開く。 I　感想を伝え合うこと 言　自分が考えた発明品について、全体の場で発表するとともに、友だちの発表に対して質問や意見を述べる。	C D E F	全体の場にふさわしい、話し方や聞き方で発表会を行う。友だちの発表に対して、具体的に質問や感想を述べる。	初めて聞く人にも分かりやすい発表を行おうとする意欲をもたせるために、３年生の児童を発表会に招待する。意見のやり取りの楽しさを味わわせるために、質疑応答の時間を確保する。